



図 6.1.4-1 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点
(G 地区、G 地区進入路、G 直近作業ヤード)



図 6.1.4-2 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点(H地区)



図 6.1.4-3 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点(N-1 地区)



図 6.1.4-4 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点(既存道路)

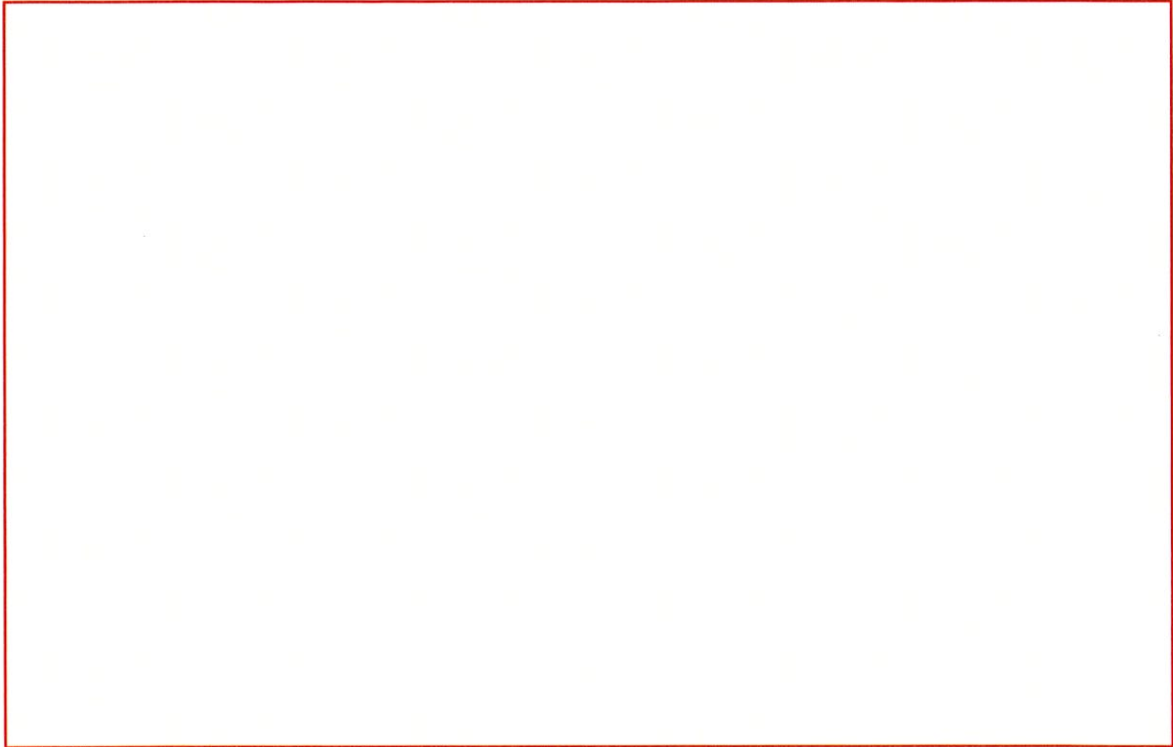


図 6.1.4-5 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点(工専用道路)



図 6.1.4-6 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点(歩道)

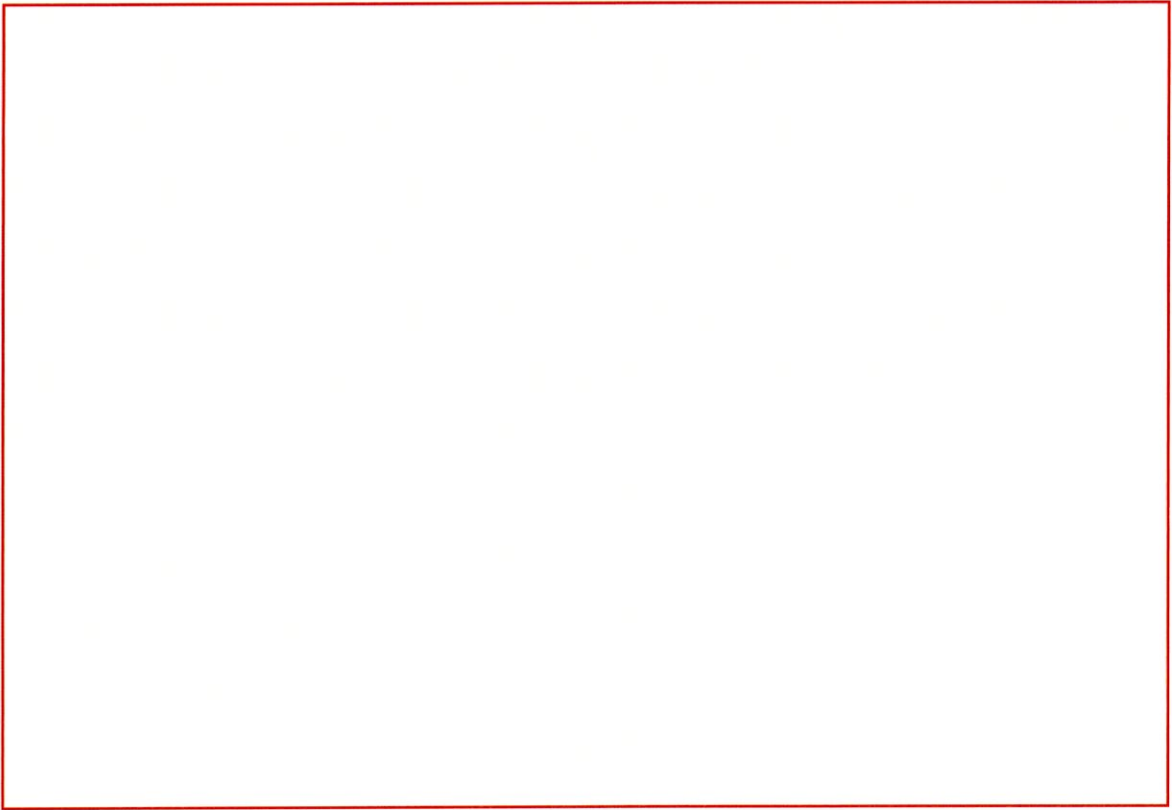


図 6.1.4-7 事業実施区域内における貴重な動物種の生息状況調査地点(H付近作業ヤード)

(4) 調査結果

a) G 地区 (G 進入路を含む)

G 地区 (G 地区進入路を含む) で確認した貴重な動物種の生息状況を表 6.1.4-3 に、確認位置を図 6.1.4-8 に示した。

調査の結果 G 地区周辺で確認した貴重な動物種は、哺乳類 1 種、鳥類 8 種、爬虫類 4 種、両生類 5 種、昆虫類 7 種、クモ類 1 種、陸産貝類 9 種の 35 種であった。G 着陸帯では 25 種、G 地区進入路では 33 種の貴重な動物種が確認された。

表 6.1.4-3 貴重な動物種の生息状況 (G 地区、G 地区進入路)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	G着陸帯		G進入路		指定状況					
					平成28年度 工事前	平成28年度 工事後	平成28年度 工事前	平成28年度 工事後	天然 記念物	種の 保存法	環境省	沖縄県		
1	哺乳類													
-														
2	鳥類													
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10	爬虫類													
11														
12														
13														
14	両生類													
15														
16														
17														
18														
19	昆虫類													
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26	クモ類													
27	陸産貝類													
28														
29														
30														
31														
32														
33														
34														
35														
計	7綱	17目	29科	35種										

注1) 当該業務範囲に生息が知られる は、いずれの種も貴重な種の指定を受けていることから、貴重種として扱った。

注2) 調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の縁辺から外側へ50mの範囲内での確認状況を示した。

注3) 貴重種指定状況の categories を以下に示す (抜粋)。

* 環境省: 「環境省レッドリスト2015【哺乳類】【鳥類】【爬虫類】【両生類】【その他無脊椎動物】【貝類】【昆虫類】」(2015) 環境省

* 沖縄県: 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物種—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)

IA (CR) → 絶滅危惧 I A 類 (絶滅の危機に瀕している種—ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

IB (EN) → 絶滅危惧 I B 類 (絶滅の危機に瀕している種—I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

II (VU) → 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)

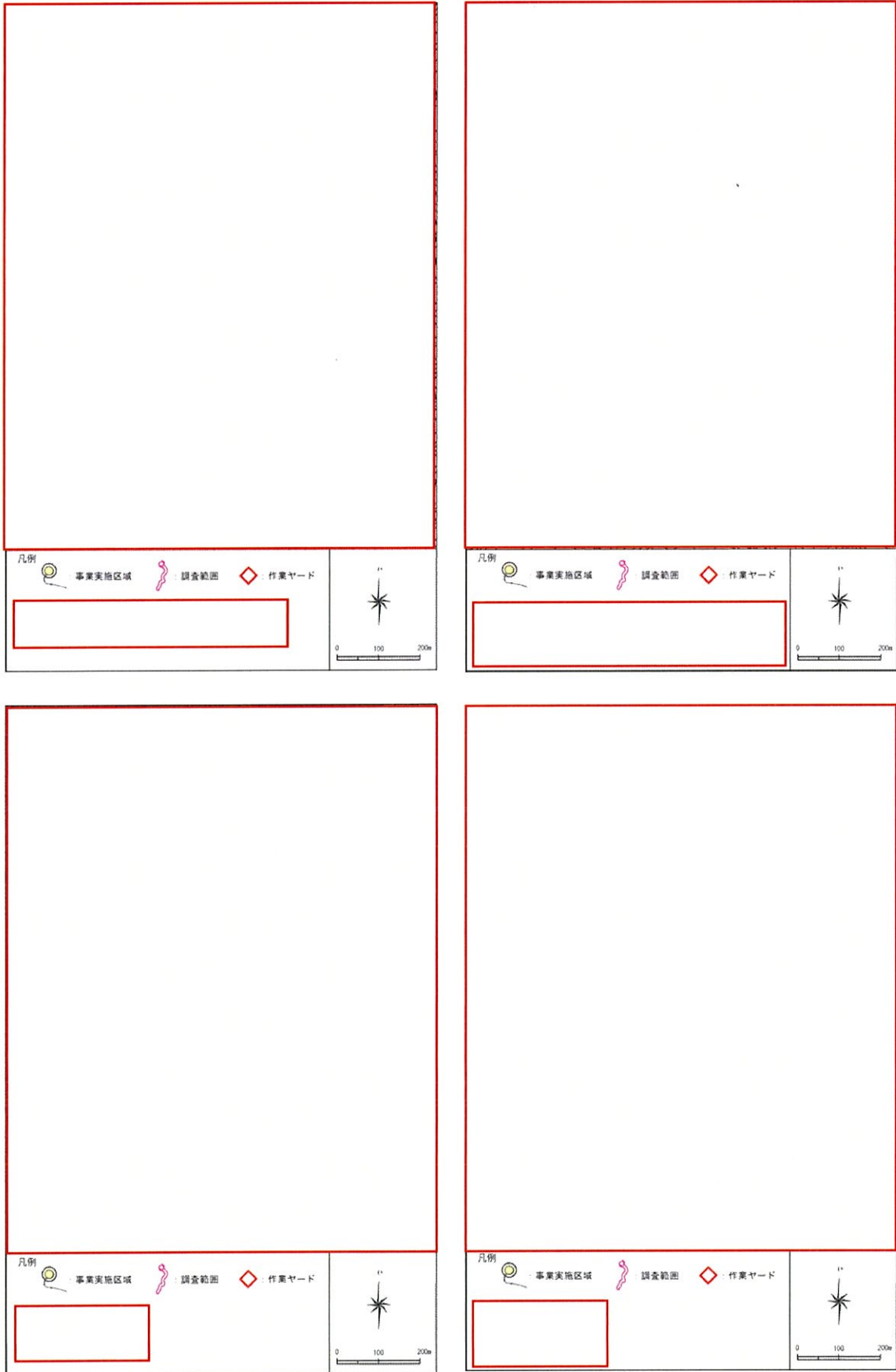
準 (NT) → 準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

* 種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)

国内—国内希少野生動植物種 (本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)

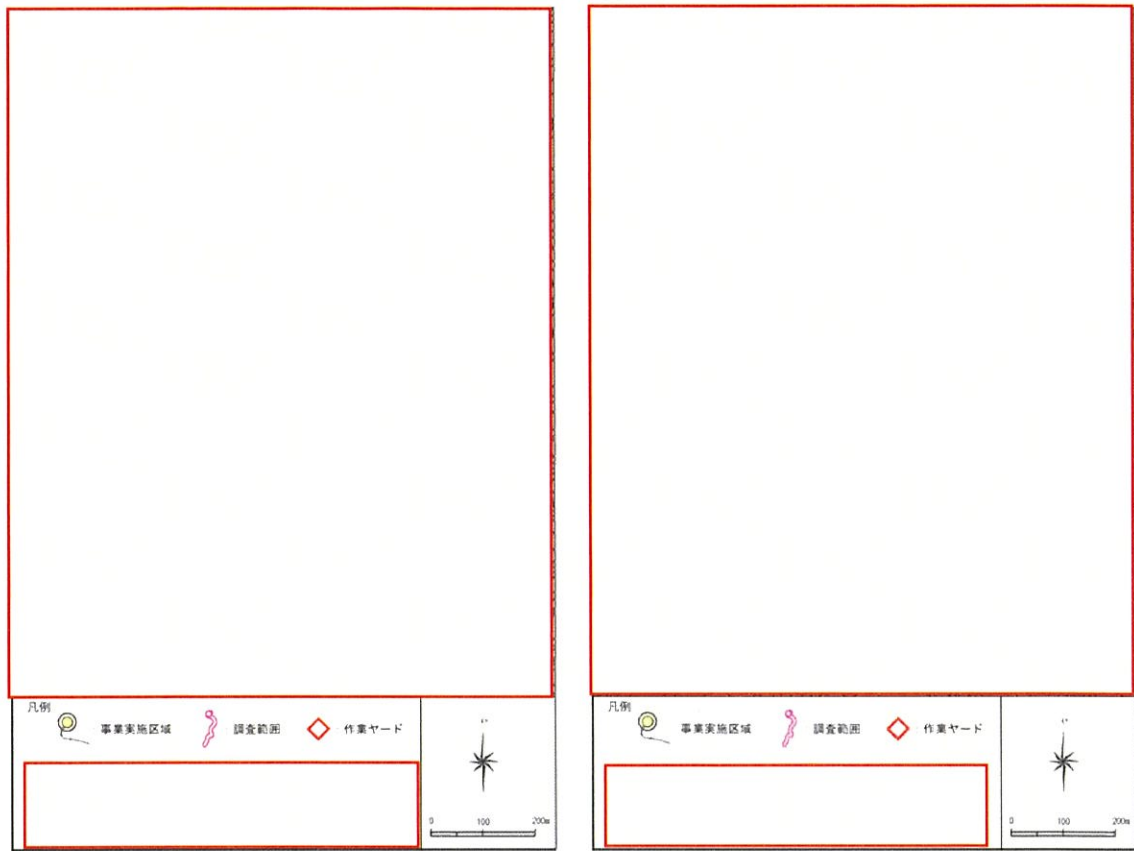
* 天然記念物: 「文化財保護法」(昭和25年法律214号)

特天—特別天然記念物 国天—国指定天然記念物 県天—県指定天然記念物



注) G直近作業ヤードにおける貴重な動物種の確認状況の詳細は表 6.1.4-9 に示した。

図 6.1.4-8(1) 貴重な動物種の生息確認位置(G地区)



注) G 直近作業ヤードにおける貴重な動物種の確認状況の詳細は表 6.1.4-9 に示した。

図 6.1.4-8(2) 貴重な動物種の生息確認位置(G 地区)

b) H 地区

H 地区で確認した貴重な動物種の生息状況を表 6.1.4-4 に、その確認位置を図 6.1.4-9 に示した。

調査の結果 H 地区で確認した貴重な動物種は、鳥類 7 種、爬虫類 3 種、両生類 4 種、昆虫類 7 種、クモ類 1 種、陸産貝類 7 種の 29 種であった。

表 6.1.4-4 貴重な動物種の生息状況(H 地区)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	確認状況 (H地区)					
					平成28年度 工事前	天然 記念物	種の 保存法	環境省	沖縄県	
1	鳥類				2	国天	国内	CR	EN	
2					1		VU	VU		
3					3			NT		
4					巣跡3	特天	国内	CR	CR	
5					1			NT		
6					2			NT		
7					幼鳥1					
8	爬虫類				4	国天	国内	EN	EN	
9					4	国天		VU	EN	
10					2			VU	VU	
11	両生類				幼体3			VU	VU	
12					幼体1			VU	VU	
13	幼生17	県天	国内	VU	VU					
14	昆虫類				11			NT	NT	
15					1			NT	NT	
16					幼体1					
17					幼生3					
18					1	県天	国内	EN	EN	
19					幼体1					
20					1				NT	
21	クモ類				2				NT	
22					4				NT	
23					3				NT	
24	陸産貝類				3				NT	
25					3				NT	
26					2				NT	
27					1				NT	
28					45				VU	
29					巢69				VU	
計					6綱	15目	24科	29種	29種	6種

注1) 調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の縁辺から外側へ50mの範囲内での確認状況を示した。
 注2) 貴重種指定状況の категориを以下に示す(抜粋)。
 * 環境省：「環境省レッドリスト2015【鳥類】【爬虫類】【両生類】【その他無脊椎動物】【貝類】【昆虫類】」(2015)環境省
 * 沖縄県：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物動物種—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)
 I A (CR) → 絶滅危惧 I A 類 (絶滅の危機に瀕している種—ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
 I B (EN) → 絶滅危惧 I B 類 (絶滅の危機に瀕している種—I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
 II (VU) → 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもちいた圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)
 準 (NT) → 準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 * 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)
 国内→国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)
 * 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律214号)
 特天→特別天然記念物 国天→国指定天然記念物 県天→県指定天然記念物

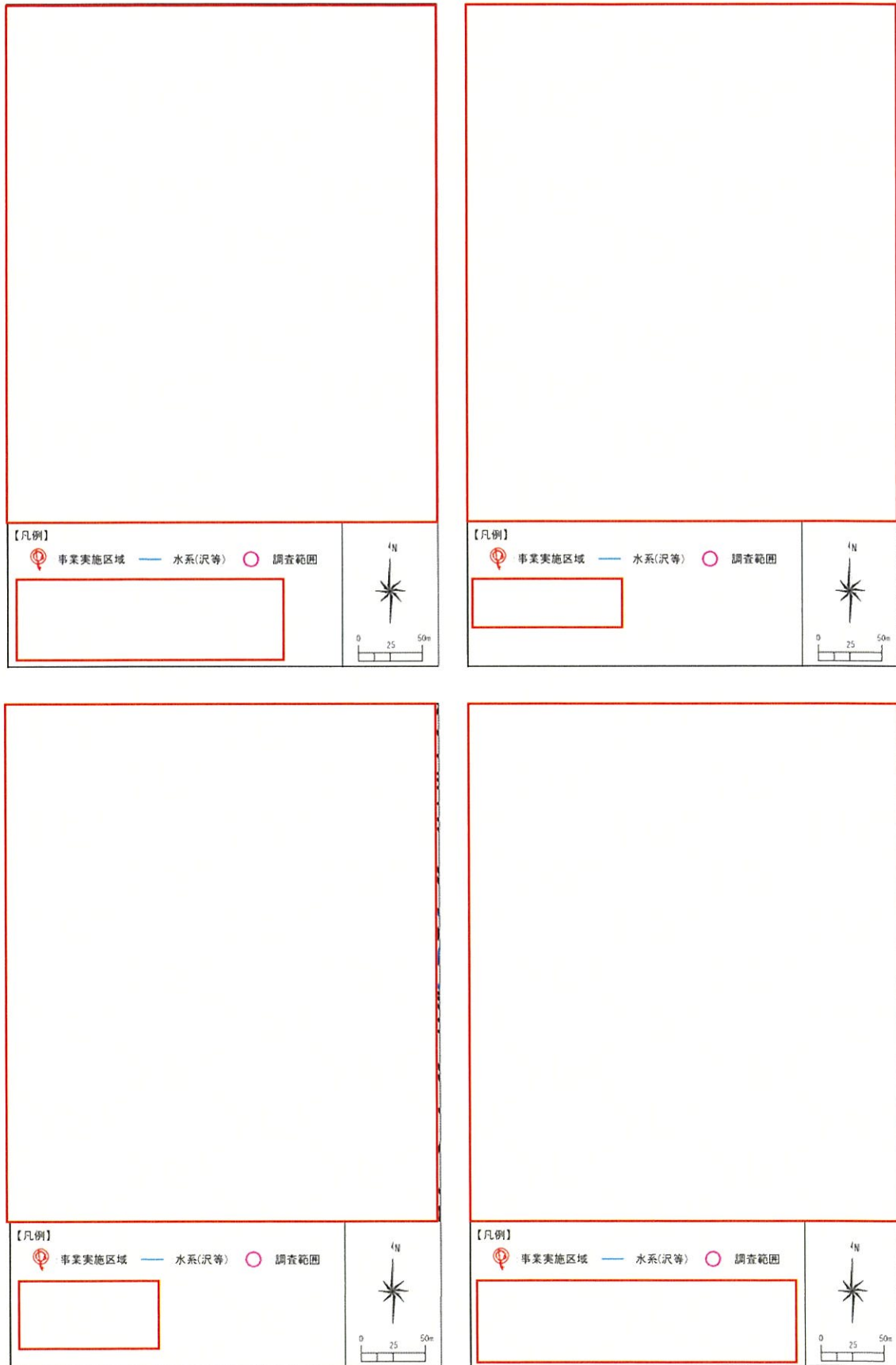


図 6.1.4-9(1) 貴重な動物種の生息確認位置(H地区)

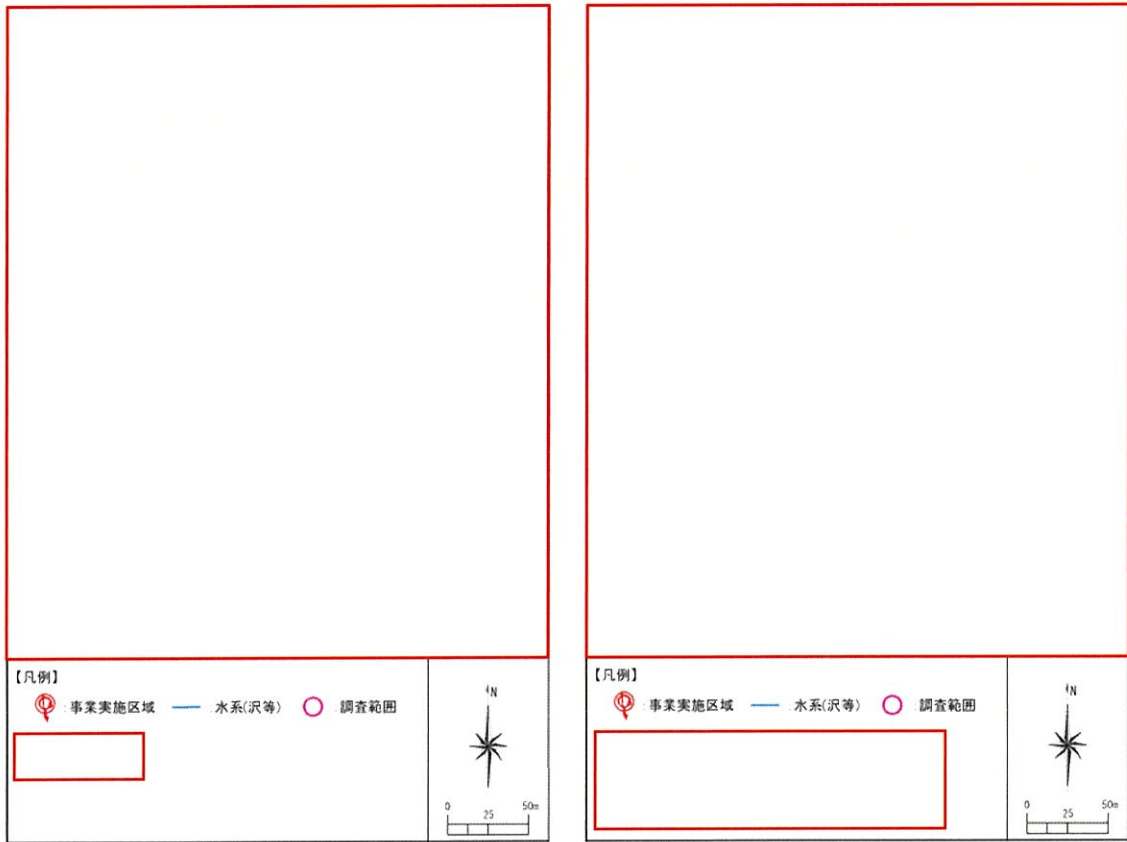


図 6.1.4-9(2) 貴重な動物種の生息確認位置(H地区)

c) N-1 地区

N-1 地区で確認した貴重な動物種の生息状況を表 6.1.4-5 に、確認位置を図 6.1.4-10 に示した。

調査の結果 N-1 地区周辺で確認した貴重な動物種は、鳥類 8 種、爬虫類 3 種、両生類 6 種、昆虫類 6 種、クモ類 1 種、陸産貝類 9 種の 33 種であった。

表 6.1.4-5 貴重な動物種の生息状況 (N-1 地区)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	確認状況 (N-1地区)	指定状況				
					平成28年度 工事前	天然 記念物	種の 保存法	環境省	沖縄県	
1	鳥類				1	国天		NT	VU	
2					1	国天	国内	CR	EN	
3					1				NT	
4					2				NT	
5					4	待天	国内	CR	CR	
6					探餌痕3					
7					2				NT	
8					3				NT	
9	爬虫類				3	国天	国内	EN	EN	
10					探餌痕1					
11					巣跡2					
12	両生類				10	国天		VU	EN	
13					2				NT	
14					4				VU	VU
15					幼体3					
16					1	県天	国内	VU	VU	
17					幼生33					
18					53				NT	NT
19	3				NT	NT				
20	幼生20									
21	幼体1	県天	国内	EN	EN					
22	1				VU	EN				
23	1	県天	国内	EN	EN					
24	幼体1									
25	幼生17									
26	1					NT				
27	8					NT				
28	1					NT				
29	7					NT	NT			
30	1					NT	NT			
31	1					NT				
32	巣2					VU				
33	17					VU	VU			
計	6綱	17目	26科	33種	33種	8種	6種	26種	27種	

注1) 調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の縁辺から外側へ50mの範囲内での確認状況を示した。

注2) 貴重種指定状況の κατηγοリーを以下に示す(抜粋)。

* 環境省：「環境省レッドリスト2015【鳥類】【爬虫類】【両生類】【その他無脊椎動物】【貝類】【昆虫類】」(2015)環境省

* 沖縄県：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物種—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)

I A (CR) → 絶滅危惧 I A 類 (絶滅の危機に瀕している種—ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

I B (EN) → 絶滅危惧 I B 類 (絶滅の危機に瀕している種—I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

II (VU) → 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもたらし続けた圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)

準 (NT) → 準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

* 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)

国内—国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)

* 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律214号)

待天—特別天然記念物 国天—国指定天然記念物 県天—県指定天然記念物

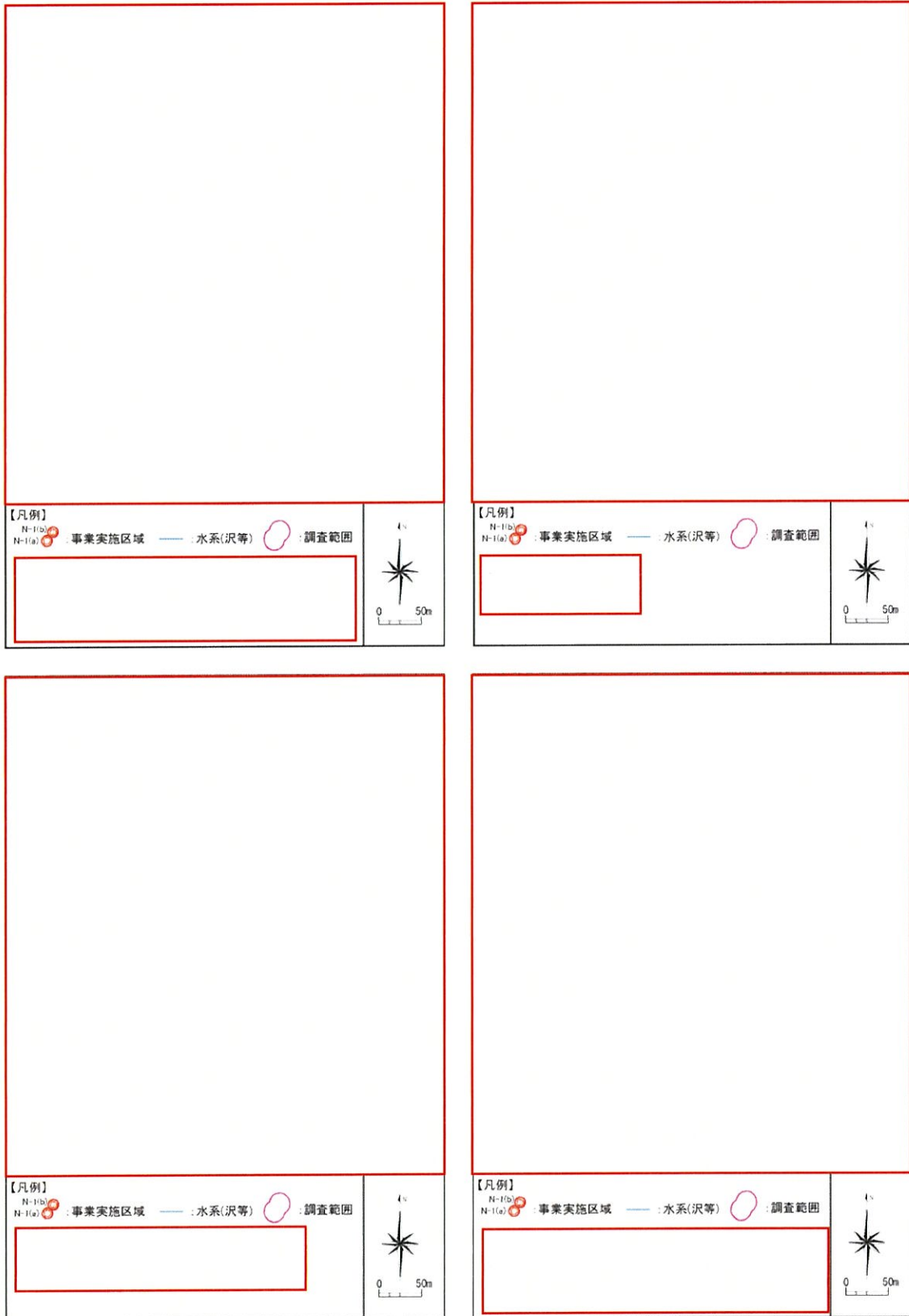


図 6.1.4-10(1) 貴重な動物種の生息確認位置(N-1 地区)

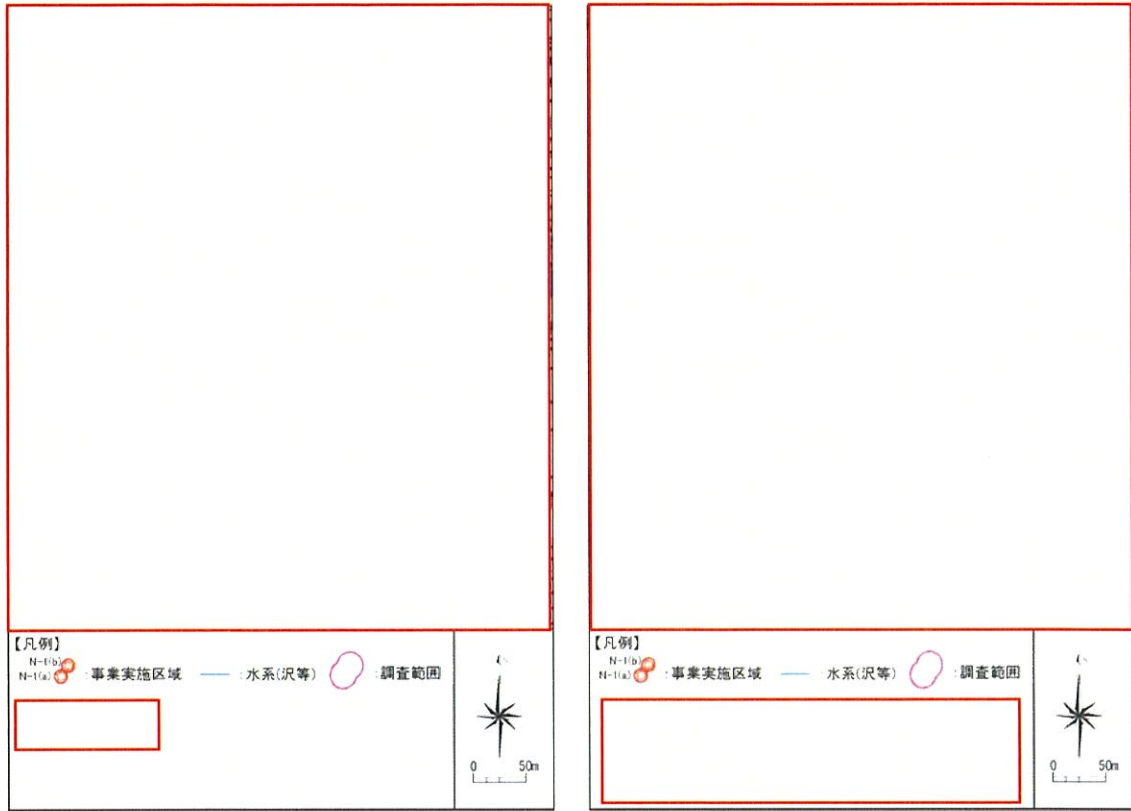


図 6.1.4-10(2) 貴重な動物種の生息確認位置(N-1 地区)

d) 既存道路

既存道路で確認した貴重な動物種の生息状況を表 6.1.4-6 に、その確認位置を図 6.1.4-11 に示した。

調査の結果、工事前調査において既存道路で確認した貴重な動物種は、哺乳類 1 種、鳥類 10 種、爬虫類 4 種、両生類 6 種、昆虫類 6 種、クモ類 1 種、陸産貝類 9 種の 37 種であった。

表 6.1.4-6 貴重な動物種の生息状況(既存道路)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	確認状況 既存道路		指定状況						
					平成26年度 着陸帯北側 工事前	平成28年度 着陸帯南側 工事前	天然 記念物	種の 保存法	環境省	沖縄県			
1	哺乳類					4				EN	EN		
2	鳥類				3	1	国天			NT	VU		
3						3	国天	国内		CR	EN		
4						1				VU	VU		
5						1					NT		
6						1	巣跡1					NT	
7						2	2					NT	
8						1	1	特天	国内	CR		CR	
9						探餌痕6	探餌痕3						
10						4	2					NT	
11						4	2					NT	
12	爬虫類				2	6	国天	国内	EN		EN		
13						2							
14						3	国天			VU	EN		
15	両生類					1				NT			
16						6				VU	VU		
17						1		県天	国内	VU	VU		
18						3	幼生12						
19						63	21 幼体1 幼生9				NT	NT	
20						4	幼生3				NT	NT	
21						幼体1					VU	EN	
22		昆虫類				2	1	県天	国内	EN		EN	
23						幼生15 卵30							
24							3	幼生50	県天	国内	EN	EN	
25							4					NT	
26						1	3					NT	
27							9					NT	
28	クモ類						3				NT	NT	
29			陸産貝類					11	1			NT	
30									1			NT	
31									48			VU	
32								22			VU	VU	
33								5			VU	VU	
34								6			VU		
35								7			CR+EN	VU	
36								15			NT		
37							3			NT	NT		
計	7綱	17目	29科	37種	16種	32種	8種	6種	29種	30種			

注1) 調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の縁辺から外側へ50mの範囲内での確認状況を示した。
 注2) 貴重種指定状況のカテゴリーを以下に示す(抜粋)。
 * 環境省：「環境省レッドリスト2015【哺乳類】【鳥類】【爬虫類】【両生類】【その他無脊椎動物】【貝類】【昆虫類】」(2015)環境省
 * 沖縄県：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物動物種—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)
 I A (CR)→絶滅危惧 I A類(絶滅の危機に瀕している種-ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
 I B (EN)→絶滅危惧 I B類(絶滅の危機に瀕している種-I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
 II (VU)→絶滅危惧 II類(絶滅の危険が増大している種-現在の状態をもちたしした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)
 準 (NT)→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種-現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 * 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)
 国内→国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)
 * 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律214号)
 特天→特別天然記念物 国天→国指定天然記念物 県天→県指定天然記念物
 注3) 着陸帯より北側については、平成26年に実施した調査の結果を記載した。

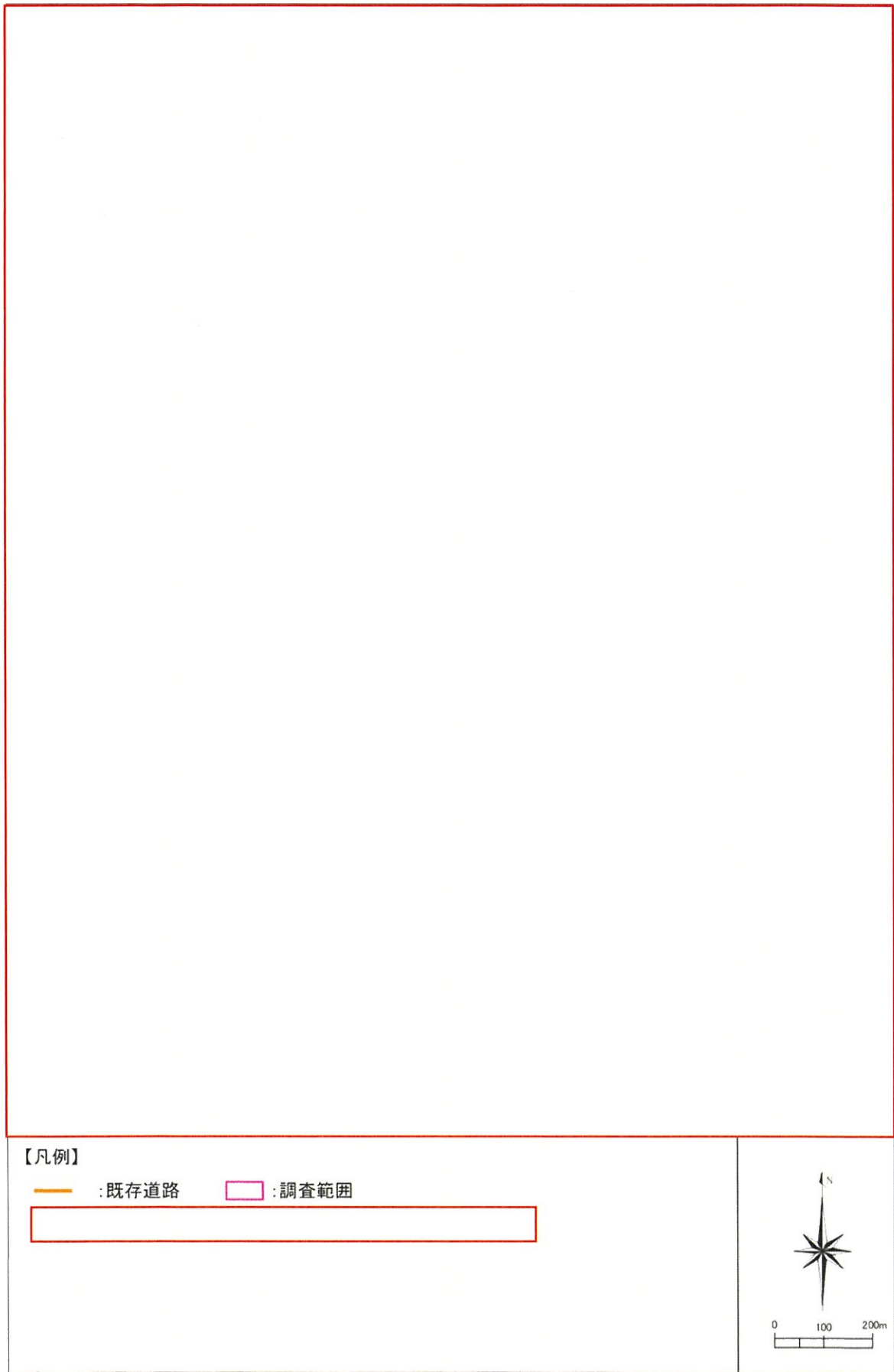
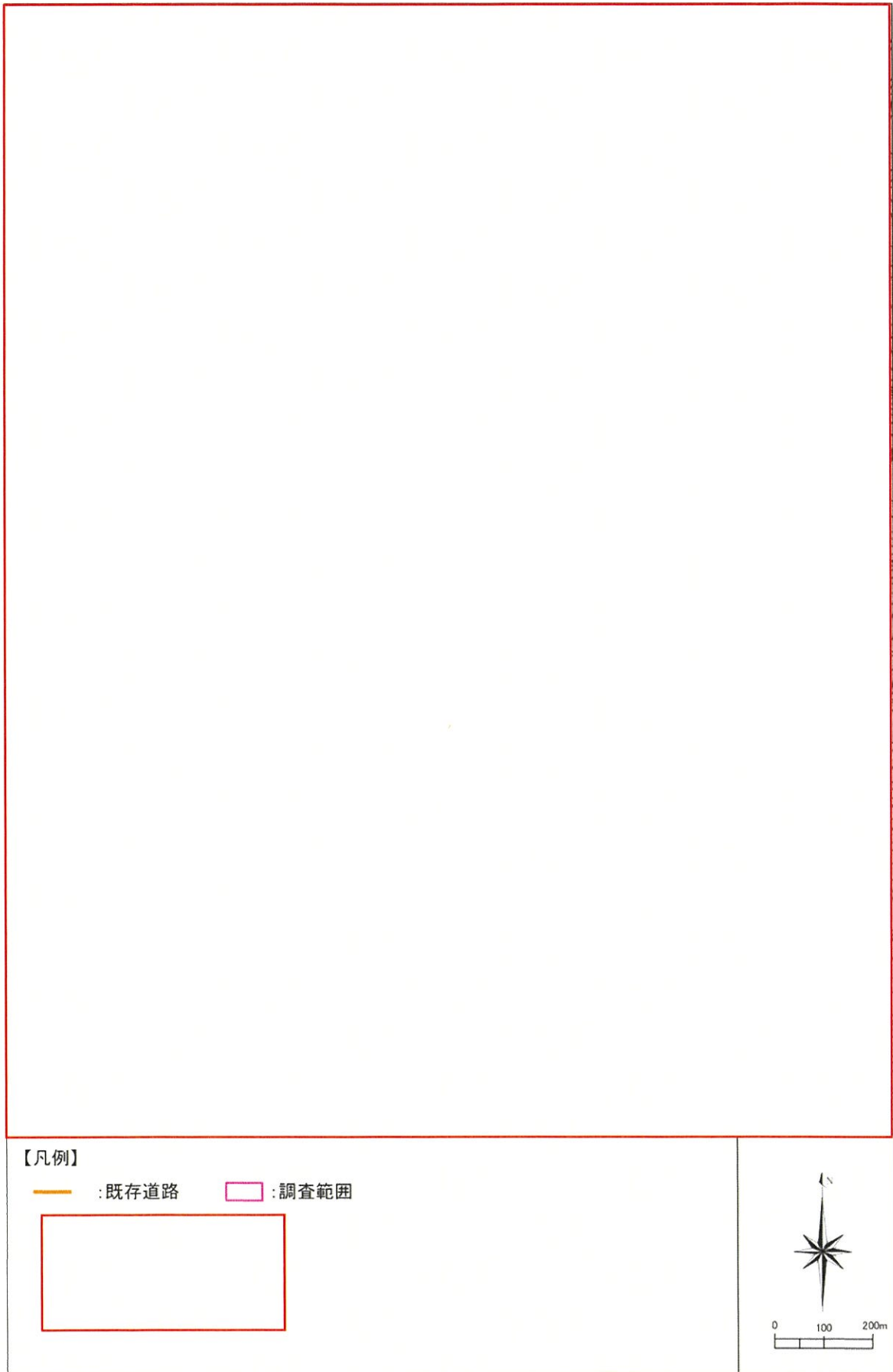


図 6.1.4-11 (1) 貴重な動物種の生息確認位置 (既存道路：哺乳類、クモ類)



図 6.1.4-11(2) 貴重な動物種の生息確認位置(既存道路：鳥類)



【凡例】

— : 既存道路 □ : 調査範囲



図 6.1.4-11(3) 貴重な動物種の生息確認位置(既存道路：爬虫類)

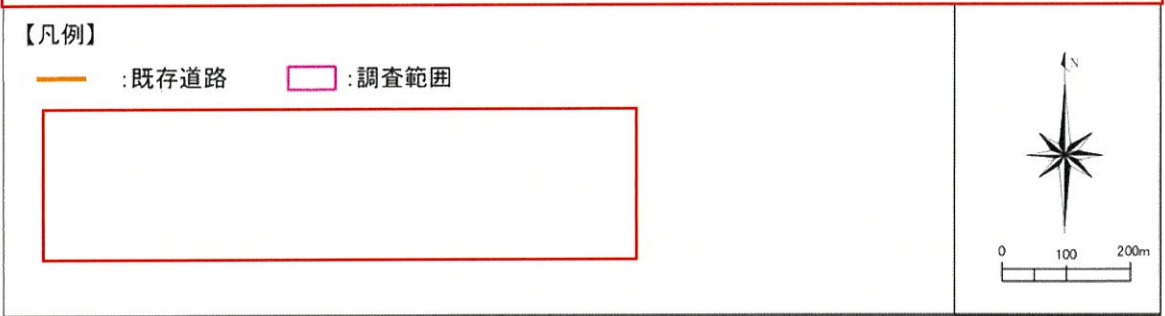


図 6.1.4-11(4) 貴重な動物種の生息確認位置(既存道路：両生類)

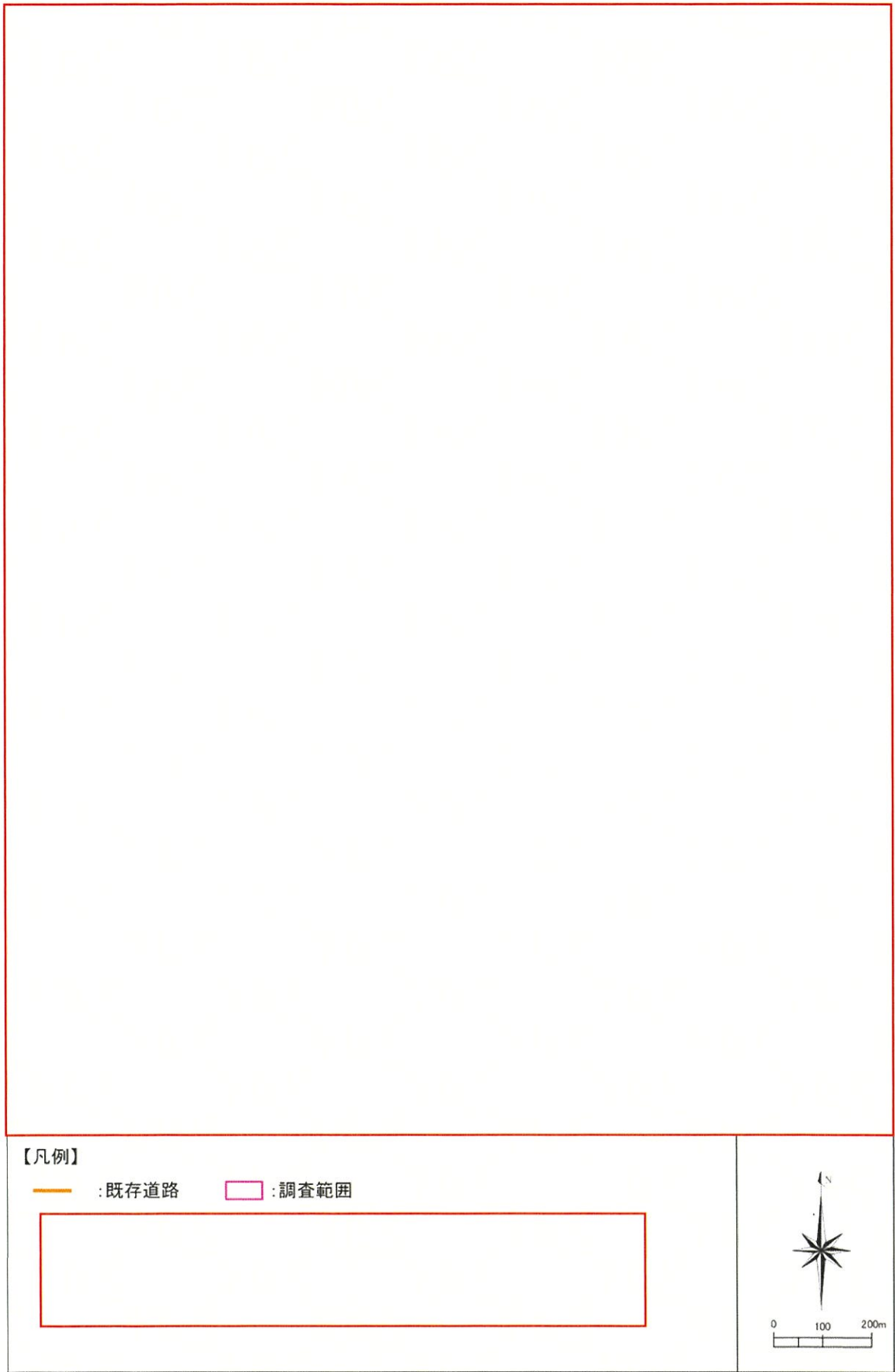


図 6.1.4-11 (5) 貴重な動物種の生息確認位置 (既存道路：昆虫類)



【凡例】

— : 既存道路 □ : 調査範囲

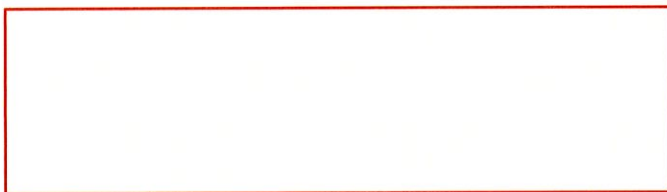


図 6.1.4-11(6) 貴重な動物種の生息確認位置(既存道路：陸産貝類)

e) 工事用道路

工事用道路で確認した貴重な動物種の生息状況を表 6.1.4-7 に、その確認位置及び移動先を図 6.1.4-12 に示した。

調査の結果工事用道路で確認した貴重な動物種は、哺乳類1種、鳥類8種、爬虫類4種、両生類5種、昆虫類7種、陸産貝類10種の35種であった。

表 6.1.4-7 貴重な動物種の生息状況(工事用道路)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	確認状況 (工事用道路)	指定状況			
					平成28年度 工事前	天然 記念物	種の 保存法	環境省	沖縄県
1	哺乳類				2			EN	EN
2	鳥類				1	国天		NT	VU
3					1	国天	国内	CR	EN
4					巢跡1				NT
5					8				NT
6					6 採餌痕4 巢跡1	特天	国内	CR	CR
7					8				NT
8				5 幼鳥1				NT	
9	爬虫類				6	国天	国内	EN	EN
10					2	国天		VU	EN
11					3			NT	
12					12			VU	VU
13				1			VU	VU	
14	両生類				幼生20 卵10	県天	国内	VU	VU
15					13 幼生7			NT	NT
16					2			NT	NT
17					1			VU	EN
18					2 幼生7 卵1	県天	国内	EN	EN
19	昆虫類				1				NT
20					2				NT
21					2				NT
22					8				NT
23					1			NT	NT
24					1			NT	
25					1			NT	
26	陸産貝類				23			VU	VU
27					2			VU	VU
28					7			VU	
29					1			VU	VU
30					10			CR+EN	VU
31					8			NT	
32					3			NT	NT
33					3			VU	VU
34					2			VU	
35					3			VU	VU
計	6綱	16目	28科	35種	35種	7種	5種	27種	29種

注1) 調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の縁辺から外側へ50mの範囲内での確認状況を示した。

注2) 貴重種指定状況の κατηγοリーを以下に示す(抜粋)。

* 環境省：「環境省レッドリスト2015【哺乳類】【鳥類】【爬虫類】【両生類】【貝類】【昆虫類】」(2015)環境省

* 沖縄県：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物種—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)

I A (CR)→絶滅危惧 I A類(絶滅の危機に瀕している種-ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

I B (EN)→絶滅危惧 I B類(絶滅の危機に瀕している種-I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

II (VU)→絶滅危惧 II類(絶滅の危険が増大している種-現在の状態をもたらし続けた圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)

準 (NT)→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種-現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

* 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)

国内→国内希少野生動植物種(本邦に生息又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)

* 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律214号)

特天→特別天然記念物 国天→国指定天然記念物 県天→県指定天然記念物